

コロナ禍で困難を抱える女性のつながりサポート事業【名古屋市】

地域の実情と課題

- 令和2年度名古屋市男女平等参画推進センターの女性の総合相談の相談件数は前年比でほぼ横ばい。
- 令和2年度名古屋市配偶者暴力被害者支援センターのDVの相談件数及び女性の自殺率は増加。
- 本市の有効求人倍率については大きく減少
⇒相談には至っていないが、経済的困窮や社会とのつながりの希薄化などにより、現在・将来の生活への不安を抱えていても、誰かに相談することが困難となっていることが想定される。

事業の特徴

- ①安心して過ごせる場の提供
様々な困難を抱えた女性を対象に、安心して過ごせる場を提供し、利用者への聞き取り調査を実施しつつ、必要に応じて相談機関の情報提供や生理用品等の生活必需品などを提供する。また、利用者同士で交流できるよう、状況に応じてコーディネーターが働きかけを行う。オンラインでも同様にバーチャルアウトリーチを実施する。
- ②面接相談
安心して過ごせる場の提供の利用者のうち、希望があった方に対し、本人の希望等に応じて対面及びオンラインでの専門相談員による面接相談を実施する。

事業の効果

- ①安心して過ごせる場の提供
対面52回、オンライン10回、計62回実施
参加者からは「やっとの思いで辿り着いた場所なので、このような場所があるという事実で救われた」「あたたかく接していただいて胸がいっぱいになった。」等の声をいただいた。
- ②面接相談
対面30回、オンライン10回、計40回実施
DV、家族関係、人間関係、仕事のことなど相談主訴は幅広く、コロナ禍以前から抱えていた問題が顕在化したものもあった。

目的・目標

- 本市において、相談に至っていないものの、経済的困窮や社会とのつながりの希薄化などにより、現在・将来の生活への不安を抱えていても誰かに相談することが困難となっている女性が多くいることを想定
⇒女性が安心して過ごせる場の提供や相談等を実施することで、困難を抱える女性が経済的・精神的自立に向かっていくことが目的

連携団体

連携団体: 経営者団体、教育機関、市民団体(女性団体、男性団体等)、行政機関の全47団体

今後の課題

- 安心して過ごせる場の利用者の状況や面接相談の内容から、本事業は、相談の前の段階にいる方が初めて相談する場として機能していることが分かる。
⇒しかし、利用者がさらに次の具体的な支援機関等につながるには、その方の気持ちの整理や後押しをして、自信をつけていただくことが必要であり、時間を要することが課題となっている。
⇒居場所の提供と面接相談に加えて将来に向けた自立を促すセミナーを柱の一つとする必要性があると考えます。

事業の概要

①安心して過ごせる場の提供

- 様々な困難を抱えた女性を対象に、安心して過ごせる場を提供し、利用者への聞き取り調査を実施しつつ、必要に応じて相談機関の情報提供や生理用品等の生活必需品などを提供した
- 利用者同士で交流できるよう、状況に応じてコーディネーターが働きかけを行った。
- 仲間づくりとしてイベントを実施
 - 自分を知るセミナー、お灸のセルフケア、お菓子作り、ヨガのセルフケア、カメラ講座 等
- オンラインでも同様に居場所やイベントを実施した



安心して過ごせる場



リーフレット



オンラインでの居場所

②面接相談

- 安心して過ごせる場の提供の利用者のうち、希望があった方に対し、本人の希望等に応じて対面及びオンラインでの専門相談員による面接相談を実施した。
- DV、家族関係、人間関係、仕事のことなど相談主訴は幅広く、コロナ禍以前から抱えていた問題が顕在化したものもあった。